

2022年11月6日朝刊



晩茶の乾燥作業の様子。乳酸菌発酵を経て日光の下に置く。2021年、袋井市

耕作放棄地を活用して、薄茶色の水と豊かな風味が特徴の茶づくりに挑む「晩茶研究会」の活動が本格化している。発酵茶の需要を見込み、産地の垣根を越えて生産技術を磨き、魅力発信を進める。

## 「晩茶」の魅力広がれ



世界お茶まつり2022秋の祭典で出展したブースに並ぶ菩提酸茶などの商品。たくさんのお客さんが立ち寄った。10月23日、静岡市駿河区

県内「研究会」活動本格化  
晩茶は十分に生育した硬い茶葉で作る。日々の煎茶栽培を行う中で、「うまみの少ないお茶でもおいしく飲めるんじゃないか」と考えた袋井市の茶農家や焼津市の茶商らが、茶文化に詳しい元愛知大教授の松下智さんを会長に迎え、乳酸菌発酵

## 産地の垣根越え消費開拓

選に選ばれるなど、徐々に認知が広がった。静岡市駿河区で10月開かれた世界お茶まつり2022秋の祭典では、多くの来場者の興味を引き「今までになかったお茶の味わい」「肉料理と一緒に飲むといい」と、などの評価を受けた。国内には徳島の「阿波晩茶」や高知県の「番石茶」など多様な発酵茶がある。

同研究会は、松下さんが所蔵する茶文化資料の管理と展示を担う「松本コレクション」を活かす会とともに、奈良や高知などの生産者を招き12月4日、晩茶に特化したサミット「BANCHATEIN(バンチャテイン)」を香りの丘茶屋(袋井市)で開き、茶業者同士の交流を通して晩茶生産の活性化策を探る考えで、同研究会の多々良高

行さん(50)は長峰製茶(焼津市)社長。日々改良しながら、消費開拓に向けた方策を考えていきたい」と話す。(経済部・平野慧)

記事を読んで、問いに答えなさい。

- ①晩茶研究会の活動とは、どのような活動か。次の語句を必ず使って、説明しなさい。  
＜耕作放棄地、産地＞

- ②袋井市の茶農家や焼津市の茶商らが、元大学教授とともに挑戦してつくった晩茶の商品名とは何か。記事の中から、漢字で抜き出して答えなさい。

- ③徳島県と高知県にある発酵茶の例には、どのようなものがあるか。それぞれ記事の中から抜き出して答えなさい。

- ④あなたが考えるお茶の魅力をもさらに高めていく具体策を、記事を参考にしながら説明しなさい。



晩茶の乾燥作業の様子。乳酸菌発酵を経て日光の下に置く。2021年、袋井市

耕作放棄地を活用して、薄茶色の水と豊かな風味が特徴の茶づくりに挑む「晩茶研究会」の活動が本格化している。発酵茶の需要を見込み、産地の垣根を越えて生産技術を磨き、魅力発信を進める。

## 「晩茶」の魅力広がれ



世界お茶まつり2022秋の祭典で出展したブースに並ぶ菩提酸茶などの商品。たくさんのお客様が立ち寄った。10月23日、静岡市駿河区

県内「研究会」活動本格化  
晩茶は十分に生育した硬い茶葉で作る。日々の煎茶栽培を行う中で、取り取った茶葉を熟成させ、天日干しで乾燥させ、じっくり飲むんじゃないかと考えた袋井市の茶農家や焼津市の茶商らが、茶文化に詳しい元愛知大教授の松下智さんをのくに山のお茶100

## 産地の垣根越え消費開拓

選に選ばれるなど、徐々に認知が広がった。静岡市駿河区で10月開かれた世界お茶まつり2022秋の祭典では、多くの来場者の興味を引き「今までになかったお茶の味わい」「肉料理と一緒に飲むといい」となどの評価を受けた。国内には徳島の「阿波晩茶」や高知県の「菩提酸茶」など多様な発酵茶がある。同研究会は、松下さんが所蔵する茶文化資料の管理と展示を担う「松下コレクション」を活かす会とともに、奈良や高知などの生産者を探き12月4日、晩茶を特化したサミット「BANCHATEIN（バンチャテン）」を香りの丘茶ア（袋井市）で開く。茶業者同士の交流を通して晩茶生産の活性化策を探る考えで、同研究会の多々良高

（経済部・平野慧）

行さん（50）は長峰製茶（焼津市）社長。日々改良しながら、消費開拓に向けた方策を考えていきたい」と話す。

記事を読んで、問いに答えなさい。

- ①晩茶研究会の活動とは、どのような活動か。次の語句を必ず使って、説明しなさい。  
＜耕作放棄地、産地＞

（例）耕作放棄地を活用して発酵茶としての晩茶を生産し、産地の垣根を越えて研究しながら消費開拓を目指していくこと。

- ②袋井市の茶農家や焼津市の茶商らが、元大学教授とともに挑戦してつくった晩茶の商品名とは何か。記事の中から、漢字で抜き出して答えなさい。

（菩提酸茶）

- ③徳島県と高知県にある発酵茶の例には、どのようなものがあるか。それぞれ記事の中から抜き出して答えなさい。

（徳島県）阿波晩茶、（高知県）碁石茶

- ④あなたが考えるお茶の魅力さをさらに高めていく具体策を、記事を参考にしながら説明しなさい。

（例）2022年10月に静岡市で開かれた世界お茶祭りなどのイベントを活用して、多様なお茶の魅力さを食事のメニューとの組み合わせで伝えたり、静岡県内にある美しい風景を觀賞しながら楽しくお茶を飲むスペースを考案していくこと。